

受講番号 18034 学校名 伊野商業高等学校 氏名 井本 真理

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年3H 生徒数 35名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 三省堂 VISTA English Series I

クラスの様子・特徴

中学校の英語学習の中で、ついていけなくなった生徒が多い。その中で、基礎的な語彙力に欠ける生徒に既習事項の復習と基礎的な英語力を定着させることを目標に、苦手意識を取り除くことから始める必要性を感じる。

問題の確定

語彙や発音に対する自信の無さから、音読練習が効果的に入っていない。一つ一つの語の発音指導を徹底し、効果的な音読につなげていく必要がある。

予備調査

A 授業の観察

生徒に音読テストの実施について、評価方法なども含めて示すことで、生徒が具体的にどのような取り組みが良いか、音読テストで何を期待されているかが分かり、積極的な取組が見られた。

B 生徒による授業評価

教材に関する関心が低く、ただ単に英語を読んでいるだけである。その内容に関する話題への興味を引くように努めなければならない。ワークシートに対する評価は比較的良好いので、ワークシートを利用した反復練習的な学習方法により、基礎学力を定着させるツールとして継続して使用していきたい。

C 学力データ

1回目のアンケートでは、中学校での既習事項であるはずの単語が分からない、読めない、書けない等の点から、英語に対する苦手意識が高く、自信が無いという結果が出た。2回目のアンケートでは、中間試験の結果が比較的良く、音読練習や確認テストにも前向きに取り組めた生徒からの肯定的な意見が多かった。

リサーチ・クエスチョン

「英語が読めない」、「単語が分からない」から英語が苦手と感じている生徒に対し、音読練習を重ねることで英文に対する苦手意識をなくすることができるか。

仮説・実践・検証

仮説1

新出単語の発音を丁寧に練習すると、単語の発音が身につくだろう。

実践1

新語句の品詞・意味について板書し、それぞれの単語の意味、説明した上で、単語を半分ずつ消していく、意味から英語を言う練習につなげ、最後には意味だけで約10語程度の単語や熟語の発音練習を行った。何度も繰り返すことで、音に慣れ、生徒も楽しみながら取り組めた。

検証1

初めて目にする英単語のスペルを音なしで覚えようとする生徒が多く、発音からその音を認識し、その意味につなげていくような練習を繰り返すことで、意味と音がつながり、語彙の定着にもつながったように思える。

仮説2

文単位での音読練習の際に、区切りながら発音することで、文のまとまりを考えて読む力が身につくだろう。

実践2

既習の単語について、文のリスニングで音を聞き取ることが出来るかを練習し、文毎の意味を理解した上で、文全体を発音することにつなげていく。その中で、下を向いたりすることがないように、板書している文だけに集中させ、音読させることによってより大きな声で練習することができた。後ろから読むなどの工夫をして、重要なフレーズは何度も練習し、ある程度スムーズに音読出来るようになった。

検証2

まとまりの語句を区切りながら、意味の確認と発音について指導していくことで、読む力以上に、意味のまとまりについての理解が深まったように思われる。

仮説3

単・熟語を理解し、本文の内容を把握した上で再度音読を行うことで、文のまとまりやリズムを考えながら、音読できるだろう。

実践3

本文の内容について理解した上で、重要な表現にも注意しながら音読することや、スラッシュリーディングを取り入れ、リズムを生かして音読することに加え、制限時間を目標として重点的に取り組んだ。

検証3

長い文を見ただけで理解することを諦めていた生徒が、区切りながら読む練習を重ねたことで、中にはそのコツを掴んだ生徒の姿も見られた。その生徒達は次の文にどんどん進み、文のまとまりを考えるという癖をつけることができたといえる。そのことで、その語句のまとまり毎に息継ぎをしたり、手で区切ったりというジェスチャーをするようになった。文を声に出して読むだけでなく、音読で意味を読み取るようとする生徒も数人ではあるが見られた。

研究の成果

授業改善に向けて自らの授業を振り返り、課題を見つけ、改善していくための方法として、リサーチクエスチョンを用いて、仮説の実践により、ある一定の成果が見られた。英語を声に出して読むことはほぼ毎時間していることではあるが、生徒がなかなか声を出さなかったが、このARを通じて数ヶ月間の練習を重ねたことにより、積極的に取り組む生徒が増えてきたことは成果と言える。

今後の授業改善の課題

今回のアクションリサーチを通じて、ある一定の成果を出せたと思う。今後は、日々の授業を振り返ることはもちろん、授業を色々な視点から観察し、生徒に合った授業にするために、それぞれの課題について、アクションリサーチなどの方法を使って取り組んでいきたい。